「株式会社」



著　者：ジョン・ミクルスウェイト、
　　エイドリアン・ウールドリッジ
翻　訳：鈴木泰雄
監　訳：日置弘一郎、高尾義明
出版社：ランダムハウス講談社
発　行：2006年10月

この本は株式会社という制度が発展してきた経緯について具体的な事例を紹介しながら示してくれている。株式会社というとアップルやフォード、パナソニックやトヨタといった有名企業が思い浮かぶが、古くは世界史で登場する東インド会社もまたイギリスで設立された株式会社であった。その株式会社という「発明（どこが発明かはぜひ本書を読んでいただきたい）」は経済社会の発展をもたらす一方で、社会に暗い影をもたらしてきたこともある。バブルの歴史をひもとくと登場する南海泡沫事件も株式会社にまつわる話であり、粉飾決算が明るみに出て崩壊したエンロンも株式会社である。このように書くと株式会社という制度がダメな制度のように思われるかもしれないが、アップルやフォードのように人々の生活を豊かにすることに貢献してきたのもまた株式会社である。株式会社という人間が作り出した制度は、いろいろな挫折を経験しながらも、成長・成熟を続けてきている。その道程をこの本でふりかえってみてはいかがだろうか。

大阪商業大学 経済学部 経済学科 専任講師
起業教育委員会 委員　柴田孝